

花のまちづくり 優秀事例発表会



日程： 平成 28 年 10 月 25 日
会場： 日比谷図書文化館(地下 1 階コンベンションホール)
主催： 公益財団法人日本花の会

プログラム

12：00	開場および受付開始	
12：50	開会あいさつ	
13：00	第26回全国花のまちづくりコンクール審査結果報告・審査講評	2
13：15	花のまちづくりコンクール優秀事例発表	
	個人部門 天野和幸（静岡県浜松市）	6
	個人部門 熊谷 哲・恵子（兵庫県姫路市）	8
	個人部門 吉田博美（福岡県宗像市）	10
	企業部門 宮崎空港ビル株式会社（宮崎県宮崎市）	12
15：15	休憩	
15：30	花のまちづくりスキルアップ講座	14
	「花と緑が拓く日本～歴史に見る園芸文化大国の再生をめざして～」	
	賀来 宏和 氏 （株式会社グリーンダイナミクス 代表取締役 プロデューサー）	
16：40	総括 コンクール審査委員長 比嘉 照夫	
16：50	全国花のまちづくり福井大会の開催案内	16
17：00	閉会	

表紙の写真

左上：バラ ‘ウーメロ’

右上：コバノミツバツツジ

左下：カノコユリ

右下：ブーゲンビリア

第26回全国花のまちづくりコンクール審査結果報告

応募者数

総応募数	1,868件
内訳	
市町村部門：	5件
団体部門：	1,597件
個人部門：	169件
企業部門：	97件

受賞者一覧

花のまちづくり大賞

花のまちづくり大賞 農林水産大臣賞

個人部門 天野 和幸（静岡県浜松市）
吉田 博美（福岡県宗像市）

花のまちづくり大賞 国土交通大臣賞

個人部門 熊谷 哲・恵子（兵庫県姫路市）
企業部門 宮崎空港ビル株式会社（宮崎県宮崎市）

花のまちづくり優秀賞 推進協議会長賞

市町村部門 中之条町（群馬県中之条町）
市町村・団体部門 湖西市・こさい花いっぱい運動推進協議会（静岡県湖西市）
団体部門 豊中緑化リーダー会（大阪府豊中市）
キッピーグリーンクラブ（兵庫県三田市）
個人部門 益田 満智子（静岡県吉田町）
西川 新吾（滋賀県近江八幡市）
中谷 邦子（兵庫県豊岡市）
企業部門 特定医療法人 群馬会 群馬病院（群馬県高崎市）
侑笹生農園 レストラン栗の里（神奈川県厚木市）

花のまちづくり奨励賞 審査委員会賞

団体部門 花時計の会（神奈川県川崎市）
とちお花企画（新潟県長岡市）
長岡市立山本中学校（新潟県長岡市）
長岡市立前川小学校（新潟県長岡市）
社会福祉法人 浄英会 長生保育園（新潟県長岡市）
野ぎくの会（富山県小矢部市）
花の郷づくり実行委員会（福井県福井市）
つりがねにんじんクラブ（静岡県三島市）
ふれあい花の会（愛知県岩倉市）
花のまち レインボー西側（岡山県倉敷市）
個人部門 岩城 元保（富山県射水市）
寺崎 啓乃（富山県富山市）
松尾 昭三郎（宮崎県宮崎市）

花のまちづくり入選

団体部門	会津若松市立川南小学校（福島県） 土浦市六中地区コミュニティーセンター（茨城県） 舟生高齢者クラブ寿会（茨城県） 五霞町立五霞中学校（茨城県） 相模線桜並木保存実行委員会（神奈川県） 足羽学園・足羽更生園（福井県） 福井市立円山小学校（福井県） 東山長生会（福井県） 牧之原市立萩間小学校（静岡県） 静岡デザイン専門学校（静岡県） 掛川市立千浜小学校（静岡県） 前飛保町夢の会（愛知県） 福地南部小学校区コミュニティ推進協議会（愛知県） 特定非営利活動法人 たんぽぽ（三重県） クラインガルテン・東住吉（大阪府） ガーデン苅尾（兵庫県） 芦屋山手 Green ねっと（兵庫県） 西宮フルーツ・フラワー研究会（兵庫県） 名塩さくら台景観緑化クラブ（兵庫県） 網干公園みどりの会（兵庫県） 長崎日本花の会・NPO ながさき千本桜（長崎県）	玉川村立須釜小学校（福島県） 土浦市笠師町子ども育成会（茨城県） 東海村立白方小学校（茨城県） 花いっぱいの会 見沼区支部（埼玉県） 長岡市立桂小学校（新潟県） 美山を美しくする会（福井県） 花でつるつるいっぱい大咲戦（福井県） 長野県須坂園芸高等学校（長野県） 介護老人福祉施設 豊田一空園（静岡県） 富丘広野花の会（静岡県） いきいき刈谷友の会 ガーデニング部会（愛知県） 刈谷市小垣江地区自治会（愛知県） がまごおり花フル会（愛知県） 桜花台花と緑の会（三重県） 学校法人 野間幼稚園（兵庫県） 伊丹市フラワーリーダー同好会 なごみ（兵庫県） アイリス高田（兵庫県） NPO 法人 にじのかけ橋（兵庫県） 鶉野中町花家族の会（兵庫県） 島原市立第三中学校（長崎県）
個人部門	岩崎 明（群馬県） 永田 辰貴（神奈川県） 新保 栄子（福井県） 三木 キヌ子（愛知県） 吉永 知英子（三重県） 高田 実千代（兵庫県） 鈴木 くみ（兵庫県） 高木 繁嘉（兵庫県） 尾花 幸雄（兵庫県） 手嶋 真二（山口県） 宮内 稔・シズエ（福岡県）	村田 由紀子（埼玉県） 市山 由美子（富山県） 吉塚 志津恵（愛知県） 森 義隆（三重県） 藤田 幸一（三重県） 遠藤 禎子（兵庫県） 末松 和佳子（兵庫県） 奥川 きみ子（兵庫県） 諏訪 早苗（兵庫県） 吉野 由紀子（福岡県）
企業部門	医療法人平谷こども発達クリニックはぐくみ（福井県） 浜寺公園指定管理グループ（大阪府）	大阪ステーションシティ（大阪府） 東京電機工業株式会社（兵庫県）

花のまちづくり努力賞

【若葉賞】

企業部門 株式会社カンディハウス（北海道）

審査講評

コンクール審査委員長 比嘉照夫

■花のまちづくりで世界がうらやむ日本をつくろう

今年も全国から数多くの応募がありました。応募してくださった皆さんには、心より感謝申し上げます。また、各賞の受賞者の皆さん、本当におめでとうございます。

さて、本年度の1,868という応募件数は、全国的な規模で見るとわずかな数字と思われるかもしれませんが、活動ごとに見ると、それぞれには何人もの人が関与して活動しているはずです。これを加味して花のまちづくりに関わった人数を推測すると、数万もしくは数十万という膨大な人数になると思われます。従って1,868件は、実はとても大勢の人数を含んでおり、社会的には大きな影響を持っているといえます。

それぞれの活動に携わった人の花に寄せる思いは異なるでしょうが、その思いの先には花やみどりや地域をきれいにし、良くしていこうという願いや期待が込められています。花のまちづくりを進めていくうえでは、これらの一つひとつの思いを、活動する人の総意として集約させることが重要です。それぞれの思いがばらばらのままでは、せっかく活動を続けていてもいっこうに成果は上がりません。

花壇を例にして言うと、デザインや花の選択がちぐはぐなものになってしまいます。これでは見た目にはきれいには見えませんが、周りの景観とも調和しません。草花の生育状況では良く育っているものもあれば、そうでないものもあります。これでは花壇という限られた世界ではありますが、ミクロな生態系が保持されません。また、このような状況の花壇を見た人は、花からの感動すらも得られません。何よりもこれでは活動していて楽しくありません。

花のまちづくりは関係する人が、心をひとつにして取り組む活動です。“づくり”という意味は、大勢の人の心を合わせてものを作り上げる行為を意味しています。花のまちづくりは取り組む人の心を一つにすることで、きれいな花壇や美しい街並みができるだけでなく、多くの花の社会性と成果を生み出し、その結果、有形無形の社会資産を作り出しています。

花のまちづくりの成果が、清潔で美しい国、安心して安全に暮らせる国、人に優しい国等、世界がうらやむ今日の日本に寄与しているものと信じています。

■花のまちづくりを極めた個人と企業が地域のまちづくりをリード

今年は例年よりも一段と高いレベルの審査となりました。特に第二次審査委員会では、大賞を競ったものが例年以上に多くあり、これらの評価に審査委員はかつてないほど悩みました。

大賞レベルの候補者は、過去に優秀賞や奨励賞などを複数回受賞されている方たちばかりで、もともとハイレベルな活動をされているうえに、活動内容がどれも優れていて、花のまちづくりの見本となるようなものばかりでした。

審議では地域の花のまちづくりをどれだけリードしてきたか、地域に伝わる様々な先人の知恵を応用して今の活動に活かし、さらにレベルアップしたものになっているか、前回の受賞時に比べて、どれだけ活動が改善・発展し、地域社会に波及されているか等、いくつもの要素を各委員が出し合って議論し、それらを総合に評価して受賞者が決定しました。

大賞受賞者の4名の活動にはそれぞれ特長があります。天野和幸さんは並外れた個人のバラ園づくりが1万人以上の見学者を迎え、さらに、東日本大震災被災地への復興支援、地元幼稚園児との交流拡大を積極的に図っています。吉田博美さんは草花の栽培技術と知識が突出して優れており、それを惜しみなく地域住民に教え、さらに地域に自生するカノコユリの保全・保護に取り組んでいます。熊谷哲・恵子ご夫妻は、荒れていた里山を再生させ、地域の資産として多様に活用し、これにオープンガーデンの楽しみを融合させて、環境保全を積極的に図っています。宮崎空港ビルは、ブーゲンビリアに特化した取り組みを発展させながら、空港周辺の企業や行政を巻き込んだ花のまちづくりにまで発展させています。

どの大賞受賞者にも共通していることは、花のまちづくりを極めた達人たちだということです。

優秀事例発表

- 01 妻に捧げたバラ苑から花のまちづくり
花のまちづくり大賞
農林水産大臣賞
個人部門 天野和幸（静岡県浜松市）
- 02 里山とオープンガーデンが融合した花のまちづくり
花のまちづくり大賞
国土交通大臣賞
個人部門 熊谷 哲・恵子（兵庫県姫路市）
- 03 ‘花あふれるまち「宗像」をめざして’
花の魅力でつながる「人とひと、人とまち」
花のまちづくり大賞
農林水産大臣賞
個人部門 吉田博美（福岡県宗像市）
- 04 地域とともに、花のあるまちづくり
～南国リゾートみやざき、ブーゲンビリアのまちづくり～
花のまちづくり大賞
国土交通大臣賞
企業部門 宮崎空港ビル株式会社（宮崎県宮崎市）

個人部門 天野和幸（静岡県浜松市）

‘妻に捧げたバラ苑から花のまちづくり’

■活動のきっかけ

「お父さん、再入院はホスピスです。もう二度とこの我家には帰って来られません。」1998（平成 10）年 5 月の雨の朝、仏壇に線香を供え、手を合わせたまま振り返らずに妻が発した言葉でした。

娘たちや実家の兄、姉に精一杯のことをしてもらいましたが、痛みが強くなり覚悟の時が来ました。何とか動けるうちに 2 人で何度も行った島田のバラ園に行きたい。これが最後の花見になるかも・・・と、痛みの極限を知る妻の人生の最期の願いでした。バラの花も少なくなった 5 月の終わりに再入院、8 月 28 日未明、49 才のお別れとなりました。

数ヶ月前の夜、三女の成人式の食事会の席で、「ねえ、お父さん、やっと新婚時代が来たねえ。」と、娘 3 人を成人させた妻の喜びの体に巣食う病を誰も知る筈がありませんでした。私には鉄工業と農業の二足の草鞋を履いて、妻と育て上げた 800 坪の茶園がありました。農協の茶生産役員等からは「共進会に応募せよ。」と言われた優良なお茶園でしたが、このお茶園で妻にどれ程の苦労をさせたかと思うと、本心茶園を見るのが辛かったです。

今、私の全てを懸けて何が出来るか・・・。“そうだ茶園を無くし花を植えて妻の供養をしよう”、茶園の伐採を始めて間もなく、例の役員さんが来られて、「こんな素晴らしい茶園を掘り取るのは気が違ったのか？ 2 年もすれば馬鹿を見たと思う時が来るぞ」。何を言われようともう後戻りはしないと決心していました。互いに敬愛し信頼し合った妻との 28 年間。苦楽を共に支え合い 3 人の娘を育てあげてく



れた 49 歳の妻を亡くして、その 1 年半後に私は再婚をしました。

相手はとても美しく、やさしい 1,000 株のバラの花嫁です。

四十九日の法要を済ませ、バラ苗の発注後、造成に 6 ヶ月、苗を受け取って半年間育苗し、1999（平成 11）年 12 月下旬に 1,000 株のバラ苗の植付けが終了しました。2000（平成 12）年 5 月中旬に、地元新聞に「亡き妻に贈るバラ園」と大きく報道され、同月 28 日には長栄寺住職を招いて、「ばらの都苑」と銘を打ち開苑供養祭を催しました。都苑のテーマは「愛」。人を敬う心と夫婦の愛、家族の絆、供養が前程であるが故に、剪定、消毒、灌水、造形工作物等の管理のすべてを、^{ひとりの}独人の信念と理念を貫き通して、はじめて妻に捧げる「愛」なのです。

都苑の“都”は亡くなった妻の名前なのです。

■ばらの都苑をまちづくりにいかす

都苑は第一次 5 ヶ年を妻への供養として、第二次 5 ヶ年では、苑内に日本の歴史上の建造物を 5 棟以上造形し、つるバラと野バラを組み付けました。苑入口のアーチは 1 株で仕立てた純白の高さ 5m、神が宿るか仏が住むか、いいえ私の一本気の思いが宿る塔です。慈しみの門、白川郷合掌の家、雅の院、恵の城、愛と絆、希望の鐘、五輪作成の準備などに取り組みしました。

第三次 5 ヶ年計画では、3 月に咲くクリスマスローズと河津桜を加え、4 月には花桃、5 月

にはバラ、6 月にはユリと 5 種類の花に挑戦しています。

花桃は 7 年前に苗を 150 株購入して植えました。迷路の上に高さ 1.5m の赤い太鼓橋を造り、そこから眺めると遠くまで見えると大喜び。花桃がいっぱい咲く下にはクリスマスローズ 500 株が競って咲きます。この時期は桜や梅では味わえない三色の桃の花がとてもきれいです。



青い吊橋は2014（平成26）年2月に男の孫の誕生を記念して造り始めたところ、小学生

の孫たちが手伝ってくれて素敵な橋が完成しました。同時に池も造り、錦鯉や金色の鯉が100匹以上泳ぎ、園児たちの関心も自ずと高まります。ここは池と橋と花の三拍子が揃った園です。

ユリの取り組みは5年程前からになります。新たな発想で、園児に自然の中での体験ができるようにと「ぼくとわたしのめいろ」づくりに取り組んでいます。球根を植える所と通路を整備して、10月に約1000個の球根を植えました。自分たちが植えたユリの花が顔より大きく咲き、迷路と吊橋と太鼓橋に登ったり、少し危険（スリル）も体験できたりします。花と迷路と橋と緑をいっぱい楽しめます。

■ 東日本大震災の被災地へ支援

2012（平成24）年3月、私が種から育てた花桃苗1,000株を東日本大震災の被災地へ贈りたいと静岡県ボランティア協会に申し出たところ、快諾していただき苗木500株を同協会に寄付する約束ができました。同年7月に岩手県遠野市へ150株の植栽が決まり、野田総理のお手植えの予定が組まれました。しかし、総理は急用ができて欠席となってしまいました。

だが、大勢の役員やオーナーと復興の願いを込めて植栽しました。さらに同年9月には400株を大槌町で植栽しました。日本花の会の一員として復興を願って花桃を植栽して花のまちづくりの手伝いもしています。

2015（平成27）年7月にも250株を大槌町等へ寄付し、この4年間で6回、合計で1,700余の株を植栽しました。

■ ばらの都苑は地域へも大きな反響

2014（平成26）年5月上旬、若いカップルが突然訪ねてきました。「このバラ園で私たちの結婚式を挙げさせてください。3年前から何度も行って、天野さんの夫婦愛、家族の絆などの話を聞いて、私たちの門出はこのバラ園にしようと思いました。是非お願いします。」とお願いされました。結婚式は翌年の5月23日に決定し、当日は天気にも恵まれ列席者、見学者

で大賑わいでした。新聞3社、テレビ等にも報道されました。

ばらの都苑開花以来16年目の大きな、大きな節目のシーズンとなりました。バラの見頃に小学生、園児、車椅子、施設の人たちの人気の花園として、更にはインターネットで全国からの方も大勢来られます。花の持つ様々な力が地域や全国へも浸透していることがわかります。

■ 今後の展開

今後の展望は、今までと同様に花桃苗を大量に育苗します。東北被災地、更には新たにその近隣の町へも植えていく予定です。

今、私の住む当地での最大の話題が、来年放

送のNHK大河ドラマです。主人公の井伊直虎ゆかりの地へ、この記念事業の一つとして、大規模な桃原郷構想を推進して行く計画です。



個人部門 熊谷 哲・恵子（兵庫県姫路市）

‘ 里山とオープンガーデンが融合した花のまちづくり ’

■活動のきっかけと概要

花づくりは30年前に、石ころだらけの痩せた庭土を耕し、石を取り除き、堆肥を加えて土づくりから始めました。当時は売られている花苗は種類が少なく、植えたい花は種から育て、ご近所の方に差し上げたり、近くの公園に植えたりしました。18年前、現在の地に移り住み、また一から庭作り（土づくり）を始めました。2003（平成15）年にマルモ出版が初めて全国オープンガーデンガイドブックを出版する際に、この庭を掲載していただき、2006（平成18）年より地元のオープンガーデンにも参加しました。

その頃、自宅のすぐ近くまでイノシシがやって来るようになり、里山整備の必要性を感じて、自宅北側に隣接した山の一部約5,000㎡を購入し、さらに隣接する20,000㎡も所有者と協定を結んで整備を始めました。長年放置されていたため、タイヤ、がれき、ビニールシートなどのゴミが投棄され、また、常緑のヒサカキ、イバラ、ネザサ等が生い茂り、人が入れない状態でした。これらの放置ゴミを回収して、密生した草木を兵庫方式という里山整備法で刈り



取り、地域の方も安心して通れる散策路を作っていました。

路沿いにツバキ、アジサイ、サクラ、モミジなど多種の花木を植えています。また里山の入口には花壇を作り、訪れた人々が季節の花々を楽しめるようにしています。ここは地域の子どもたちが遊びを通じて、緑や生き物に触れ、生物多様性など環境学習が出来る里山ガーデンとして常時オープンにしています。

■自然と人との共生を考えた環境にやさしい庭づくり

活動では次のような点に努力しています。

- * 夫婦ともに仕事と介護を抱えているので、庭の維持管理が楽なように花の苗作りもしますが、宿根草、花木、カラーリーフ、ハーブを多く取り入れています。
- * 家庭から出る生ごみはコンポスターを使って堆肥化しています。このコンポスターは約30年前に購入したものを今でも使用しています。
- * 灌水には雨水を利用しています。合併浄化から下水に変更となった時、必要がなくなった地下浄化槽（4,200L）に雨水を集め、それを庭に配水するシステムを作りました。
- * 刈り取った剪定くずや雑草は、庭の隅や林間に堆積して堆肥に変えて利用しています。
- * 土作りは植物が健全に育つためには欠かせません。自作の堆肥の他に、パーク堆肥、牛糞、そして自作の肥料（米ぬか、油粕、クンタン、骨粉、微生物発酵促進剤を混ぜ



て発酵させたもの）を元肥や追肥に使っています。

- * 農薬はほとんど使いません。虫を食べてくれるカマキリ、カエル、トカゲ、鳥は大切にしています。
- * 生物多様性に配慮しながら、木の伐採や管理を行っています。

■ 前回の受賞時との違い

全国花のまちづくりコンクールにおいて



2009（平成21）年と2013（平成25）年に奨励賞、2010（平成22）年には優秀賞をいただきました。それらの受賞後にさらに取り組んだ主なことを紹介します。

- * 自治会との連携強化を図りました。里山ガーデン内にいくつかの散策路を整備しまし

たが、その中には地元連合自治会の協力を得て、自治体から整備にかかる費用の助成金をいただきました。地元小学校まで通じる路もあり、自治会主催でこの路を通して地元の名所をめぐるウォーキング会も行われています。

- * 理事長を務めるNPO法人はりま里山研究所の活動を本格化させ、プレーパーク（子どもの冒険広場）、キッズサイエンスクラブ、サイエンスカフェ等の講座シリーズ、里山ガーデンを活用した大学の講義やフィールドワークを開催しています。
- * 学生団体活動が進展しました。兵庫県立大学の学生は、この里山で地域の小学生と交流しながら、環境教育の実践も行っています。また建築系学生によって、ツリーハウス等のデザイン・建築やつり橋・滑り台等の遊具作成などが行われ、学生の実習の成果が子供達に喜ばれています。

■ 活動の成果

オープンガーデンを開催することで、多くの人々と交流を深め、花づくり、そしてまちづくりの輪が広がっています。また春と秋に里山まつりを開催し春は桜とつつじ、秋は紅葉を楽しんでもらっています。

放置・荒廃した里山に再び手を加え、自然と共生する場を作り、大人には花と緑で安らぎを、学生には学びを、子どもたちには自然の良さを体験できる場を提供できました。



里山内のビオトープではモリアオガエルの産卵が毎年見られ、貴重な種の保全にも貢献し、低木常緑樹の伐採で里山の植物体系が是正され、光が入ることで植物の多様性も増してきました。

里山に複数の散策路を設置したので、超高齢化社会において健康寿命を延ばすため、里山で自然の花を楽しむウォーキングが役立つと思います。



■ 今後の展開

近隣でオープンガーデンに参加する家庭が少なく、この成果をもとに地元自治体と協力して仲間を増やしていきたいと考えています。

里山整備の範囲を広め、私設の里山公園として多くの方に利用していただいています、広

い里山の管理の負担が増えています。里山整備も含めた活動を託す次世代の方を育てていき、持続可能な社会を目指そうと思っています。

個人部門 吉田博美（福岡県宗像市）

‘ 花あふれるまち「宗像」をめざして ’

花の魅力でつながる「人とひと、人とまち」

■活動のきっかけ

1968（昭和43）年から、福岡県職員として花の栽培農家や花の栽培を志す学生への指導を行ってきました。また、花の生産振興や消費拡大業務を行う等、長らく花にかかわる仕事をしてきました。

これまで仕事を通じて習得してきた花の栽培技術を生かして、花のある豊かな地域づくりをしたいと思い、2003（平成15）年に建てた自宅を拠点にして、花のまちづくりの活動を始めました。



■バラと草花による花のまちづくり

花に囲まれた生活を目指して、自宅周囲の1,200㎡の庭に300種類を超える草花やバラ・花木等を植えています。花あふれるまち「宗像」の第一歩として、生垣として植えられていたスギを取り除き、道路沿いはもとより庭の奥の方まで見通せるようオープンな庭づくりを始めました。

2007（平成19）年からは街なかに花を広めるべく「むなかた水と緑の会」に所属し、JR赤間駅や市民交流施設の花壇作りにおいて、苗の手配や植え付・管理指導等、会の中核として活動しています。

2008（平成20）年からオープンガーデンを始めました。庭を見に来られた方からバラの勉強をしたいとの声が多く寄せられたため、2009（平成21）年には自宅で座学と実習をセットにしたバラの講座を開催するようになりました。その後、数多くの希望者の声にこたえるべく順次講座数を増やし、現在では4つのバラ講座を開催しています。また、今ではこの講座の受講生も私の代わりに講師を担ってくれるほどに実力が増し、オープンガーデンをする仲間も増えてきました。

2013（平成25）年からは、自宅でガーデニング講座も開催するようになり、近隣の春日市が主催するガーデニング講座も担当する等、花作り技術の普及と花あふれるまち「宗像」という夢を共有する仲間作りに取り組んでいます。



■ 宗像市の花「カノコユリ」による花のまちづくり

宗像市は全国でも数少ないカノコユリの自生地です。1981（昭和56）年には公募によって市の花に指定されました。しかし、カノコユリは生育適地の消失によりその数が減少し、絶滅危惧種にも指定されています。そこで、2010・2011（平成22・23）年に九州大学や宗像市と共同で実態調査を行いました。その結果、確認されたカノコユリの一部は宗像固有種であることが判明し、これらの保全・普及を図るために、栽培や増殖に関する調査研究を進めてきました。このデータをもとに毎年種播き講習会を行い、種を播いたプランターを持ち帰って育ててもらうことで、カノコユリの市内への普及を図っています。この5年間で講習会を25回開催し、受講者は500名を超えました。カノコユリは種をまいて開花まで4〜5



年かかりますが、初期の受講者のカノコユリが開花し始めています。

また、カノコユリの生育は環境に大きく左右されることから、栽培の知識を持つ人材の育成を目指し、2014（平成26）年1月に「宗像カノコユリ研究会」を設立しました。自宅で毎月研究会を行い、カノコユリによる花のまちづくりのリーダーとしての活動が出来る体制づくりを進めています。

《 宗 像 カ ノ コ ユ リ 研 究 会 》
<http://www.kanokoyuri.info/index.html>



■ 活動で努力している点と成果

オープンガーデンの見学者は年々増え、5月の10日間だけで2,500名を超えることがあります。活動の核となる庭は年々充実を図っており、東屋や木製のバラの棚、車椅子で回れるよう園路を整備する等、ますます温かみの感じられる庭となり見学者にも喜ばれています。

市の花カノコユリについては、花が咲く里の復活・普及を図りたいとの一念で取り組んできた活動も今年で7年目となります。賛同される

カノコユリ研究会の会員が100名を超え、今後の保全・普及活動に大きな期待ができます。

また、種から育てたカノコユリが咲き始めたことから、今年の8月に1週間、自宅を開放して観賞会を開催し賑わいました。来年は、市民が自由に見られるよう自宅の前に造成中の公園に植え、カノコユリ公園として整備することとしています。

■ 今後の展開

庭を作り始めて13年、自宅が花の魅力を伝える活動の拠点として定着し、多くの人に自分の想いを伝えることができ、共感者を増やすことが出来ました。

多くの人との交流やボランティア活動の場が広がり、これまでの経験を生かして地域社会に貢献できることに幸せを感じています。こうした活動が、花のある豊かな地域づくりはもとより、停滞する花の消費拡大、生産振興につながるよう更に努力して行きたいと思っています。



企業部門 宮崎空港ビル株式会社（宮崎県宮崎市）

地域とともに、花のあるまちづくり

～南国リゾートみやざき、ブーゲンビリアのまちづくり～

取締役社長 長濱保廣

■活動のきっかけ

宮崎空港ビル株式会社は、1962(昭和 37)年に宮崎交通(株)の関連会社として設立しました。宮崎交通の社長でもあり当社の創業者でもある岩切章太郎社長は、「宮崎観光の父」と呼ばれ、「大地に絵を描く」という思いで全県公園化を目指し、日南海岸やえびの高原など宮崎の代表的な観光地を作ってこられました。

その岩切社長に衝撃を与えたのが、山梨県笛吹市の桃源郷を視察した際に目にした、見渡す限りの桃の花でした。風景を構成しているのは地域の方々が生活のために育てている桃の木ではあるものの、一面桃色に染まった景色を目の当たりにして、やはり地域の方々が一緒になって行う「まちづくり」には敵わないと悟られたといいます。そして、ブーゲンビリアを南国宮崎の花にしたいと願っておられましたが、当時はブーゲンビリアはなかなかうまく育ちませんでした。

ところが、1990(平成 2)年に建築された宮崎空港の現ターミナルにブーゲンビリアを植えたところ、これらがすくすくと育ってくれました。ここからブーゲンビリアのまちづくりが本格的に動き出します。また、私どもも岩切社長が見た山梨県笛吹市の桃源郷に実際に赴き、素晴らしい景色に感動したことが、地域と一緒に花のまちづくりを始めるきっかけとなりました。1998(平成 10)年からは 1.2m ほどに育てた鉢を、毎年 500 本地域の方々にプレゼントしています。また、ホテルでのパーティーや、ゴルフトーナメント会場などにブーゲンビリアを無料で貸し出す事業など、観光客の皆様にも喜んでいただけるように取り組んでいます。



空港ターミナル正面



第 18 回ブーゲンビリア 500 本プレゼント

■活動概要

● 地域との連携

2014(平成 26)年に宮崎空港の開港 60 周年を迎えたことを機に、空港の愛称を公募し、「宮崎ブーゲンビリア空港」と命名していただきました。さらに宮崎の南国イメージとして発信していくために、宮崎県知事をはじめ、市町村長や行政の方々、航空業界と一緒に「ブーゲンビリア植栽プロジェクト」を立ち上げ、県内に植樹活動を行っています。



宮崎県庁正面玄関前

● 花ボラネット宮崎

県内の花のボランティア活動を集約し情報共有と活動支援を目的に「花ボラネット宮崎」を設立し、ボランティアの方々をサポートしています。

● 宮崎空港歓迎美化協議会

宮崎空港内では、行政と一緒に「宮崎空港歓迎美化協議会」を設置し、一年を通して花と緑にあふれた空港を維持し、空の玄関口としてお

客様に楽しんで頂ける空間づくりを行っています。

● 宮崎空港線修景美化推進協議会

宮崎空港周辺では、国、県、市、空港関連企業等が一体となった「宮崎空港線修景美化推進協議会」を設置し、地域の方々や空港関係者と一緒に、空港周辺の道路などに花を植える活動を行っています。



空港スタッフ・グリーンキーパーの皆さん



大きく育った空港のブーゲンビリア（6月）

■ 活動の成果

空港の緑化はもとより、地域の方々との連携で花のまちづくりを進めてきたことで、ボランティア活動の参加者も年々増加し景観に対する意識も高まってきました。また平成10年から始めた「ブーゲンビリア500本プレゼント」

は、今では街並みに広がり、南国宮崎の風景を醸し出しています。ワシントン・パームツリーなどに加え、色鮮やかなブーゲンビリアが南国リゾートらしさを引き立たせ、空の玄関口の空港を訪れる方々を楽しませています。



2007年に植樹した1mのブーゲンビリアが、見事に4階まで大きく育つ（宮崎観光ホテル駐車場）



宮崎市大淀川沿いの橘公園

■ 今後の展開

今後も行政と民間、地域の方々が一緒に「花のまちづくり」の輪を一層広めていくことによって、宮崎の観光の発展に寄与していきたいと思っています。



第18回ブーゲンビリア500本プレゼント

花と緑が拓く日本

～歴史に見る園芸文化大国の再生をめざして～

株式会社グリーンダイナミクス 代表取締役 プロデューサー 賀来宏和

○はじめに

○江戸の園芸史概論

- ・時代毎に流行した植物と園芸文化の流れ

○世界を驚かした江戸園芸

- ・幕末から明治初期に訪れた外国人を驚かせた江戸園芸

○江戸園芸文化についての誤解

- ・江戸期前後と植物の流行現象
- ・種の認識についての誤解
- ・庶民園芸と数寄者の奇品園芸、武士の園芸
- ・江戸と地方の園芸文化

○江戸の園芸文化の特徴と未来への示唆

- ・江戸時代の園芸文化に見る未来のガーデニングへのヒント

○伝統園芸植物や園芸文化の保存と継承

- ・伝統園芸植物の定義
- ・植物種による保存継承の危機
- ・観賞の作法の保存継承
- ・ナショナルコレクションホルダーの仕組みや伝統園芸保存継承者認定制度など
- ・もしここが現代の植物王国イギリスならば

講師プロフィール

千葉大学大学院園芸学研究科修了。1979年に旧建設省に入省、主に公園緑地行政に携わる。在職中に今日のガーデニングブームの起点となった1990（平成2）年開催の「国際花と緑の博覧会」を4年間にわたって担当するとともに、その継承事業の一つとして「花のまちづくりコンクール」の創設にもかかわる。

1992（平成4）年に同省を退職し、㈱グリーンダイナミクスを設立。花と緑に係るイベントの企画立案や運営、花と緑のまちづくりやテーマ施設の企画や講習などに取り組む。2004年の「浜名湖花博」のプロデューサーなどのほか、花をテーマとした介護施設づくりのプロデュースなども行い、ライフワークとして日本の園芸文化や鎮守の杜についての調査研究活動にも注力。



カエデ



変化朝顔



肥後朝顔



肥後菊



松葉蘭（麒麟角）



松葉蘭（青龍角）



百両金（麒麟錦）

全国花のまちづくり福井大会 開催案内

■全国花のまちづくり地方大会とは

花のまちづくりコンクール推進協議会では、花のまちづくり運動を全国へ普及・啓発することを目的に、毎年、地方公共団体との共催による「全国花のまちづくり地方大会」を開催しています。

花のまちづくりコンクール推進協議会

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会
一般財団法人日本花普及センター

公益財団法人都市緑化機構
公益財団法人日本花の会

■全国花のまちづくり福井大会の概要

■日程

- 平成29年6月3日（土）…… 講演・デモンストレーション（華道家 假屋崎省吾氏）
（会場：ハピリン） 事例発表（第26回全国花のまちづくりコンクール大賞受賞者など）
○平成29年6月4日（日）…… 『魅せる』庭づくり講演（吉谷桂子氏 英国園芸研究家、ガーデン&プロダクトデザイナー）
（会場：福井県総合グリーンセンター） 現地見学会

■お申し込み先・お問合せ先

福井市大手3丁目17番1号（福井県農林水産部森づくり課内）〒910-8581
TEL：0776-20-0442 / FAX：0776-20-0655 /
e-mail：mori@pref.fukui.lg.jp

～ 福井県での花のまちづくりの取り組み ～



花の郷づくり実行委員会



足羽学園・足羽更生園



美山を美しくする会



福井市立円山小学校



花でつるつるいっぱい大咲戦



東山長生会



新保 栄子



医療法人平谷こども発達クリニックはぐくみ

※第26回全国花のまちづくりコンクール 応募用紙より

Handwriting practice lines on page 17. The page contains 20 sets of horizontal dashed lines for writing practice, each set consisting of three lines (top, middle, and bottom).



公益財団法人日本花の会

〒107-8414 東京都港区赤坂 2-3-6 コマツビル
TEL:03-3584-6531 FAX:03-3584-7695
E-mail : hananokai@komatsu.co.jp
<http://www.hananokai.or.jp>